

令和4年度第1回長久手市男女共同参画審議会要旨

開催日時	令和4年8月2日（火曜日） 午後3時から4時30分まで
開催場所	ながくてエコハウス 多目的室
出席者氏名（委員 50音順、敬称 略）	<p>【委員】</p> <p>板倉純子、鬼頭和宏、杉谷希美、藤原直子、水野和幸、水野道子、山口康代、山本かほり、横田純子</p> <p>【事務局】</p> <p>くらし文化部長 門前健、同部次長兼たつせがある課長 磯村和慶、同課課長補佐 堤健二、同課係長 神谷将行、同課主事 星野ちひろ、子ども部子ども家庭課長 出口史朗、同課主任 藤澤英美</p>
会議の概要	<p>1 議題</p> <p>(1) 第3次長久手市男女共同参画基本計画各課等の取組状況について</p> <p>(2) 令和4年度長久手市男女共同参画事業について</p> <p>ア 令和4年度長久手市男女共同参画事業（案）及び令和3年度事業の実績について</p> <p>イ パートナーシップ宣誓制度について</p> <p>ウ 長久手市協働まちづくり活動補助金におけるテーマ事業枠の募集について</p> <p>エ 第4次長久手市男女共同参画基本計画の策定及びアンケート調査項目について</p> <p>オ DV 関連事業の令和4年度事業（案）及び令和3年度実績について</p> <p>(3) その他</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人数	0人
問合先	くらし文化部たつせがある課 電話 0561-56-0602

1 議題

(1) 第3次長久手市男女共同参画基本計画各課等の取組状況について

【資料1—1、1—2、1—3に基づき事務局より説明。】

委員 出前講座への参加者が、淑徳大学内の13名だけではもったいない。広く周知する講座ができるとよい。講座を広く周知することについて、学生に手伝ってもらうことは、学生にとっても学びになると思うので、次回開催時には、検討をお願いしたい。

(2) 令和4年度長久手市男女共同参画事業について

ア 令和4年度長久手市男女共同参画事業（案）及び令和3年度事業の実績について

【資料2に基づき事務局より説明。】

委員 男女共同参画啓発事業「歌と時代と男と女」は、これまでの男女共同参画講座の概念が取り払われるほどの素晴らしい内容だった。今回だけに限らず、今後も実施していくものなのか。また、実施のきっかけはどのようなのか。

事務局 実施のきっかけは、文化の家からの打診があったことである。男女共同参画について、幅広く市民に周知するため、今後も様々な施策を実施したいと考えており、その第2弾として、協働まちづくり活動補助金を利用した新しい取組をしていきたい。

委員 情報紙の配布先は市内公共施設や学校とあるが、具体的にどのような施設で配布しているのか。

事務局 文化の家、各共生ステーション、まちづくりセンター及び福祉の家などである。

イ パートナーシップ宣誓制度について

【資料3 No.1に基づき事務局より説明。】

会長 導入にあたって何か支障となっていることがあるのか。

事務局 制度の検討を進めると同時に、性的少数者に対する意識醸成を実施する必要がある。それには、市職員や市民に対する啓発活動を行う必要があると考えている。そのために市職員向け研修や協働まちづくり活動補助金を用いて、市民向け講座等を実施したいと考えている。

事務局 パートナーシップ宣誓制度は、元々は性的少数者に対する施策だったと思うが、それが全国に広まる中で、パートナー同士の子どもに範囲を拡大したファミリーシップ制度や、性的少数者に限らない多様な生き方を支援する制度に変遷している状況があるため、本市においてどのような制度が望ましいのか、メリットとデメリットを含め検討していきたい。制度の案がまとまれば、審議会にて提示し、ご意見をいただきたいと考えている。

委員 最近ではパートナーシップ宣誓制度と同時にファミリーシップを同時に導入する事例がほとんどではないか。この制度を導入するにあたって、デメリットというものはあり得ないと思う。

市民の意識の醸成も大事だが、意識の醸成を待った上で導入するのではなく、人権としての観点で、速やかな導入をお願いしたい。

委員 パートナーシップ制度を導入するにあたっての素地ができあがっていないと認識しているのか。

事務局 年配の方々は抵抗がある人もいるのではないかと考えている。

事務局 LGBTQに関しての当市の取組は、他市町と比べ進んでいない部分があるのではないかと考え

ている。市内の年配の方に話を伺うと、自分の周りにそのような人はいないと言われることもある。今後パブコメを実施した際に、様々な意見が出ることを想定し、制度設計を進めていきたい。

委員 今回の資料ではLGBTにQがついている。前回の資料ではQがついておらず、この意味が分からず確認したところである。自身も高齢者であるので、今後、意識の醸成を行っていくのであれば、小学生や高齢者に分かりやすいよう、丁寧に説明をお願いしたい。

委員 基本的にパートナーシップやファミリーシップ宣誓制度に反対する方がいたとしても、その方たちに及ぼす影響は何もなく、その方たちの生活は何も変わらない。現在、困っている人が幸せになるだけである。そのような観点をもって、制度の導入を早急に進めてもらいたい。

ウ 長久手市協働まちづくり活動補助金におけるテーマ事業枠の募集について

【資料3 No. 2に基づき事務局より説明。】

会長 応募の見込みはどうか。

事務局 事前に淑徳大学のLGBTQについて活動しているサークルに話をさせていただいて、応募について検討を進めてもらっている。学生は、上限10万円で100パーセントの補助率となるので、委員のゼミ等に所属している学生にPRをお願いしたい。

委員 補助の対象経費はどのようなか。

事務局 補助の対象となる経費については、募集要項に定めている。外部講師への謝礼、消耗品費、会場使用料などが対象経費である。

エ 第4次長久手市男女共同参画基本計画の策定及びアンケート調査項目について

【資料3 No. 3、資料4に基づき事務局より説明。】

委員 一般向けアンケート問18について、自身が回答しようとした場合に近いものがない。「分からない」と回答したい。問19については、問18で1、2と回答した人しか答えられない。

会長 LGBTQについて、問う場合に、最初にLGBTQについての説明が必要であると思う。

委員 問18から20までの質問の流れが不明確である。LGBTQについてのアンケートは他の自治体でも実施しているので、参考にさせていただきたい。冒頭にいきなり当事者が回りにいるかどうかを問うというのはあまりなく、言葉の認知度や理解度について聞くことが多い。問20はもう少し色々な選択肢があってもよいと思う。踏み込んだ項目を作成するのであれば、ご家族（親、兄弟）、同僚等が、当事者であった場合に受け入れられるかどうかの項目を追加してもよい。アンケートのボリュームを考慮し、検討してもらいたい。

会長 回答者の属性についての問いは最後にしてはどうか。本当に答えてほしいものを答えてもらえなくなってしまう。

今回のアンケートの質問項目は、前回のアンケートを基に作成しており、言葉の使い方もあえて合わせているということではどうか。

事務局 その通りである。前回のアンケートとの差を調べるために、問い方をあえて変えるようなことはしていない。

委員 質問の聞き方で、アンケートを実施する側の価値観が出てしまう。問4で「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方がありますが、とあるが、そのような考え方はありませんと言いたくなる。一つ一つ丁寧に読み込んで検討したほうがよい。

問5では、なぜ女性だけについて職業を持つことを聞いているのか。男性についても聞いてみてはどうか。

会長 せっかくファミリーシップ宣誓制度の導入検討の話があったので、問21の旧姓使用についての聞き方について工夫をしてはどうかと思う。

委員 問13で「DVの経験がありますか」という聞き方は、かなり唐突に感じるので、問い方を検討してもらいたい。

会長 様々な意見が出たため、今回の意見を基に一度事務局でアンケート内容を見直し、それを我々で審議することとしたい。後からでも気づいた点については、メール等で連絡してもらおうこととしてはどうか。続いて、中学生向けのアンケートについてご意見を伺いたい。

委員 このアンケートの実施方法について教えてもらいたい。

事務局 今回の審議会で内容について審議した後、校長会に諮り、了承を得た上で、各中学校で配布してもらいたいと考えている。対象は、中学2年生を考えており、配布は学校を通じて行うが、回収は、封筒やインターネットを用いて学校を通さず回収することを考えている。

委員 「このアンケートは学校とは関係ありません。先生は確認等しません。」とあるが、質問項目は言葉が難しく、中学生が項目について、理解できるかについてはかなり個人差があると思う。

事務局 事務局としては、男女共同参画について、一般市民と中学生の比較をしたいと考え、あえて同じ書き方にしているところもある。今回の審議会で意見をいただいたので、中学生に分かりやすい文にした上で、比較ができるようにしたい。

委員 なかなか学校でLGBTQについての話をする機会がないため、そもそもこのアンケートを実施することが大丈夫かと思う。一度、教育委員会と相談をしてもらいたい。

委員 問5、問6については、性別を問わず、回答ができるような設問を検討してもらいたい。自身の子も小学生だが、学校でLGBTQについて何か話があるかと聞いたところ、先生からは、ぼんやりとしたことを教えてもらっているだけのようだった。アンケートを実施するにあたっては、LGBTQについて、もう少し説明をするべきではないかと思う。

事務局 LGBTQについての知識の差があることのご意見をいただいたため、アンケートの実施と同時に知識の習得もできるように実施の検討をする。

委員 中学生用の調査だが、一般市民向けの表題を（中学生用）と変えるだけでなく、中学生用のア

アンケートの作成の仕方があると思う。先行自治体を参考にしてもらうのが一番である。問13は、必要かどうかを聞くのではなく、もっと学びたいことを聞いてはどうか。

会長 一般市民と比較したいのは分かるが、聞いてどうするのかという質問もある。ゼロベースとまでは言わないが、再度検討をお願いしたい。

委員 情報紙「自分らしく」について、当事者の中学生はどう思っているか、ぜひ「自分らしく」についての意見を聞いてほしい。また、一般の方々にも情報紙について、どのように考えているかを聞いてはどうか。

事務局 アンケートの作成にあたり、前回との比較に重きをおいたが、その比較がどこまで必要かを検討した上で、アンケート項目を作成していきたい。

委員 17歳以下の未成年にアンケートを実施する際には、保護者向けの文書が必要ではないかと思うので、検討されたい。

オ DV 関連事業の令和4年度事業（案）及び令和3年度実績について

【資料5に基づき事務局より説明。】

委員 生活協同組合コープあいち名東センターと連携して事業を実施しているとあるが、他の企業との連携は考えていないか。

事務局 他の企業との連携もやっていきたいと考えている。

委員 登下校時の見守りを通じて、DVの防止につながることもあるのではないか。市内の宅配業者が登下校の見守りに協力してくれている事例もあるので、その企業との連携を検討されたい。

会長 質問はないようなので、これで議題についての審議を終了する。では、進行を事務局へおかせしします。

事務局 以上で男女共同参画審議会を閉会します。本日は、ありがとうございました。